

株式会社Jバイオフードリサイクル（神奈川県横浜市）

R5補正
R6当初

22

背景・課題

食品リサイクル・バイオガス発電事業では、メタン発酵残渣の処理に多くのエネルギーが必要なことから、その環境負荷低減が大きな課題となっている。

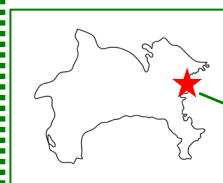
それら発酵残渣をバイオ液肥等に活用することにより、環境負荷低減を図るとともに、農家の化学肥料低減や栽培コストの削減につなげる。

成果目標

- 散布試験や肥効分析により消化液の肥料効果を確認し、固形肥料と併せて地域の農家等が年間1,800tを利用。

主な取組内容

- 農業関連の大学教授や国立の研究機関の参加による協議会の開催
- 「農業ループ」の提携先の拡大によるリサイクルループの構築
- 他の資材と混合によるバイオ液肥等の性状の改良、肥料成分の補完
- 散布実証の対象農作物の追加
- 液肥に加えて固形肥料の栽培試験の実施
- 農家の注文に応じた肥料散布業務を提供する体制の構築
- ロゴシール・チラシによるバイオ液肥等で育てた作物のブランド化
- 体験農園への肥料の提供・工場での近隣住民へのサンプル配布
- 環境問題への取組みを次世代へ継承するための子ども向け講座の開催



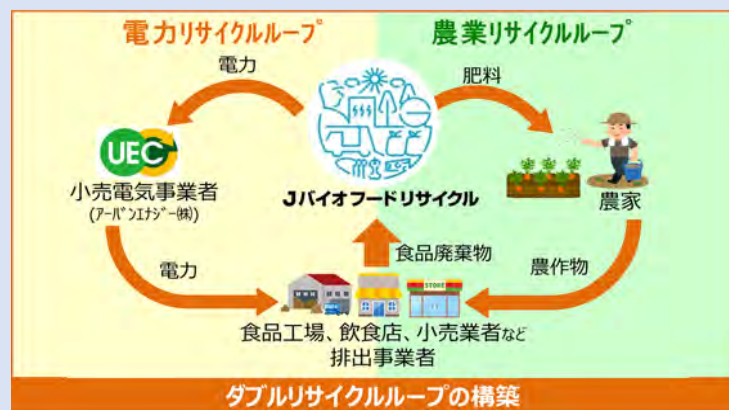
横浜市

構 成 員

株式会社Jバイオフードリサイクル

品 目

—

液肥散布を行ったほ場
(ジャガイモ)出張講座
(横浜市立南高校)

食品廃棄物由来の電力と肥料を排出事業者に還元する取組を推進し、サーキュラーエコノミーの実現を目指す。

Jバイオフードリサイクル
(バイオガスプラント)バイオ液肥
「はまのしずく」バイオ固形肥料
「はまのみり」

普及に向けた取組

供給システムと固形肥料の効率的な散布方法の確立、固形肥料の性状の改善及びバイオ液肥等の知名度向上が課題である。今後は肥料を利用する農業法人の増加、経済的な供給システムの構築、固形肥料散布作業の省力化を確立するとともに、大学との共同研究により学術的な観点でバイオ液肥等の肥効を確認することで、更なる肥料利用の拡大を目指す。

問い合わせ先

株式会社Jバイオフードリサイクル 管理室
TEL : 045-505-7845